

大会時・コロナ禍での取組

・東京2020大会の開催に伴う都心の交通規制や人流の増加等、通勤時のリスクに対応するため、2020TDM推進プロジェクトに参加

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク**・・・実施率約4～7割。社長の指示により「週3回までのテレワークを許容」。但し業務に影響がないよう各部門で調整。部門長が出社率を管理し、会議で共有
- オフピーク通勤**・・・10:00～16:00をコアタイムとし、出勤時は前後に幅を設けて、混雑を避けた出社を推奨

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

※自社は、ガソリンや軽油等の燃料を、タンクローリー等でガソリンスタンドや工場に輸送することが主な業務

燃料は、人間の生活に直結する社会インフラであるため、基本的に遅配等は許されないため、特段具体的な取組はなし

取組ポイント

- **トップダウンで取組開始**
- **出勤時間は各自の裁量に任せ柔軟に設定**

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

 テレワーク オフピーク通勤

※コロナ禍の状況を見ながら、その都度、同施策を実施

物の流れ

 特に無し

【東京2020大会を振り返って】

- ・東京2020大会期間中は、交通規制や混雑情報等を参考に、元請けがルートや配達時間等を考えて決定し、自社に指示が来る。配送担当は、その指示どおりに動いていた。
- ・「大会輸送影響度マップ」や交通規制に関する情報は、運送部門の担当で共有し、参考にしていた。
- ・中小企業は、テレワーク等を導入する際の制度づくりに時間が掛かる。大企業のように人力を多く投入できるわけではないので、日々の業務をこなしながら制度構築を行うことが難しかった。